

ランチョンセミナー6

11月15日(土) 12:00-13:00 第6会場(3F 中会議室 302B)

共催：株式会社 GramEye

感染症検査の最前線～AI や薬剤感受性試験の最新技術～

座長：高野 操（新潟医療福祉大学 医療技術学部臨床技術学科）

演者：大楠清文（東京医科大学 微生物学分野）

近年の飛躍的な技術の進歩は感染症検査にパラダイムシフトをもたらしている。実際に、感染症検査における「三大技術革新」ともいえる、自動同定・感受性機器、質量分析装置、全自動遺伝子検査システムが日常検査に導入されている。近年では、Artificial Interagence (AI)の利用と機械学習の統合で、染色像における抗酸菌、寄生虫、糸状真菌の鑑別、細菌性膣症の Nugent score 値の判定が検討されている。さらに、血液培養陽性液の自動染色や画像のデジタル化と AI 判定の融合によってグラム染色結果を報告する Mycrium®（GramEye 社）の開発をはじめ、デジタル・トランスフォーメーション(DX)の活用も進んでいる。薬剤感受性試験においても様々な技術革新の恩恵を受けながら、マイクロ流体デバイスを用いて数時間で感性菌か耐性菌を判定する画期的な技術が登場している。今後は検体を培養することなく、検体から直接の同定・薬剤感受性検査、いわゆる「Culture-Free Microbiology」の時代へ突入する可能性を秘めている。